

2016年9月期 第1四半期 決算説明資料

2016年2月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標です。

2016年9月期 第1四半期 業績(連結)

(単位：百万円)	2015年9月期 第1四半期 (A)	2016年9月期 第1四半期 (B)	前年同期比 (B) - (A)	2015年9月期 通期実績	2016年9月期 通期業績予想
売上高	961	2,355	1,393	5,429	7,700
売上総利益	419	400	△18	2,495	—
営業利益	△109	△278	△168	115	230
経常利益	63	△295	△359	237	180
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	73	△289	△363	224	170

業績概要 事業総括

ポイント①⇒アレンジ手数料収入は減少するも、優良プロジェクトの売却により売上は伸長。

- ・優良なプロジェクト資産を、投資家に売却。980百万円の売上を計上。
- ・発電事業への投資家の投資意欲は依然継続。引続き、プロジェクトのアレンジメント、又は確保・売却を続ける方針。

ポイント②⇒不動産事業は「eコマース化」に対応すべく、営業体制、事業拠点を見直し。

ポイント③⇒売上総利益が伸びず、販管費増加により営業損失となる。

- ・アレンジメント減少、及びエグジット(投資回収)がなかったことで、売上総利益は伸びず。
- ・投資銀行事業(メツァ事業を含む)の人員増加による人件費等の販管費増。

今後の事業展開、課題。

- ☑ 北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設「メツァ」開設のための事業計画立案を進める。
- ☑ 更なるアレンジ業務の顧客開拓。投資先開拓と事業支援の深化。

セグメント別業績

【売上高はセグメント間取引を含む。】

(単位:百万円)		2015年9月期 第1四半期	2016年9月期 第1四半期	前年同期比	主な連結会社
1 投資銀行事業	売上高	215	1,038	822	当社 (FGI)、フィンテックアセットマネジメント (FAM) フィンテックグローバルトレーディング (FGT) (注)
	営業利益	164	112	△52	
2 不動産事業	売上高	643	1,310	666	ベターライフサポートホールディングス、 ベルス、ユニハウス、ベターライフハウス
	営業利益	△26	13	39	
3 その他	売上高	19	10	△8	ムーミン物語、アダコテック (注)
	営業利益	△8	△22	△14	
(建設事業)	売上高	85	-	△85	岡山建設 (注)
	営業利益	△9	-	9	
調整額	売上高	△2	△4	△1	
	営業利益	△230	△381	△150	
連結PL計上額	売上高	961	2,355	1,393	
	営業利益	△109	△278	△168	

(注) FGT、ムーミン物語、アダコテックは2015年9月期第2四半期より連結。岡山建設は2015年9月期第3四半期期首より連結の範囲から除外。

・優良プロジェクトの獲得競争と投資家ニーズに機動的に対応すべく、アレンジメント業務受託と並行して、優良プロジェクトを確保した上で、投資家に紹介・売却する施策を推進。

1

・メツツァ事業は、当社内に専任の「メツツァ事業準備室」を設置。各種マーケティングをもとに事業構想ならびに基本計画の策定とその検証を進める。地元自治体等に対しては、開発、整備のための各種許認可申請や届出を進めるとともに、周辺環境の整備についての協議を行う。

2

・不動産購入希望者がインターネットで物件を探して直接物件にアクセスする「不動産事業のeコマース化」に対応する不動産会社を創造すべく、営業体制や事業拠点の見直しを進める。
・売上が順調に推移する中で、販管費の削減を進める。
・用地仕入も進め、ベターライフハウス、ベルスの販売用不動産、仕掛販売用不動産の合計額は2,712百万円(前期末比11.0%増)となる。

3

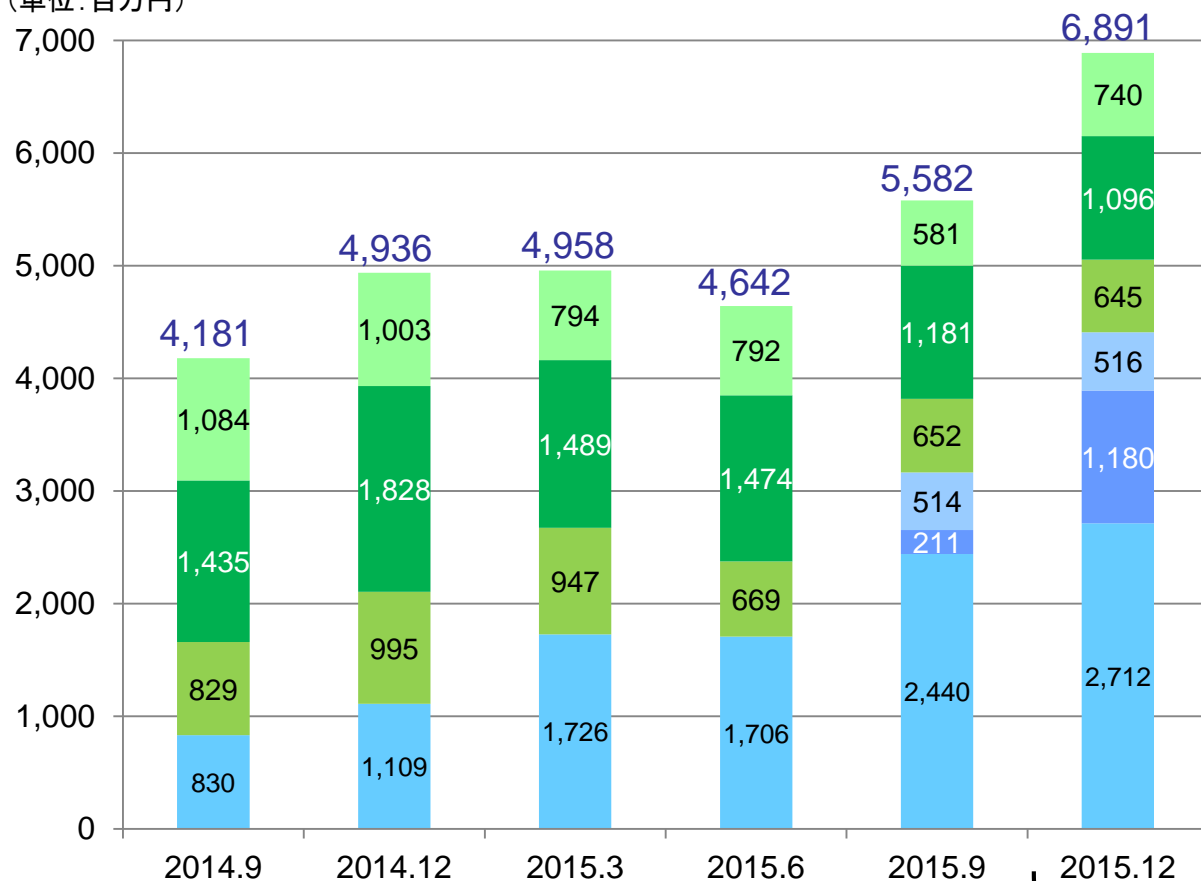
・ムーミン物語は今後の事業展開を支えるスタッフを増強するとともに、メツツァの事業計画の策定、検討を進める。
・アダコテックは、運輸・旅客分野で、安全運行を確保するための実証実験を進めるなど、大手企業から引合いが増加。

投融资の推移(連結)

2016年9月期第1四半期の主な変動要因

- ・プリンシパルインベストメント **金融とITを融合させた"フィンテック"関連企業等へ新規投資を実行。**
- ・販売用不動産(投資銀行事業) **太陽光発電所、セルフストレージの取得により増加。**
- ・販売用不動産(ベターライフサポート事業) **戸建住宅用地の取得等により増加。**

(単位:百万円)



- プリンシパルインベストメント (当社グループによる投融资)
- ベンチャーキャピタルファンド (FinTech GIMV Fundへの投資)
- 企業融資
- 固定資産(メツツア事業)
- 販売用不動産(投資銀行事業)
- 販売用不動産 (ベターライフサポート事業)

(注)

- ・プリンシパルインベストメントは、ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額であります。
- ・企業融資は、全額引当している債権を除いて記載しております。
- ・固定資産は、メツツア事業の資産のみ記載しております。
- ・販売用不動産(ベターライフサポート事業)は、仕掛販売用不動産を含めて記載しております。

2016年9月期 第1四半期末

新規投資先企業

2015年10月～12月の新規投資先企業を紹介します。

Queen Bee Capital 株式会社【投資開始 2015年10月】 FGT投資先



Queen Bee Capital(株)は財務省関東財務局長の許可を得た資金移動事業者で、インターネットによる通貨両替・海外送金サービス「PayForex」を運営・展開するフィンテックベンチャー企業です。
拡張性の高い独自のシステムと各国現地銀行との提携関係の構築等を通じ、安全性を確保しながら、従来の銀行よりも早く・安く利便性の高い通貨両替・海外送金サービスを提供しています。

MDT INNOVATIONS Sdn Bhd 【投資開始 2015年12月】 FGT投資先



MDTiは、マレーシアのRFID*ソリューション・プロバイダです。RFIDタグ・リーダーの世界トップ5のメーカーであり、中国、インドネシア、オーストラリア等アジアを中心にグローバルに事業展開をしています。顧客には大手流通企業、食品メーカー、各国政府を数多く抱え、昨今のIoT(Internet of Things)時代の到来と相まって、事業が急速に拡大しています。

2011年、フィンテックグローバル(株)において新製品の共同開発のための協力金の一部を提供したのにつき、2015年12月、フィンテックグローバルトレーディング(株)が同社に資本参加しました。

*Radio Frequency Identifier = 微小電波を用いて、非接触で、人や物等のID情報を識別管理する仕組み

ミュージックセキュリティーズ株式会社【投資開始 2015年12月】 FGT投資先

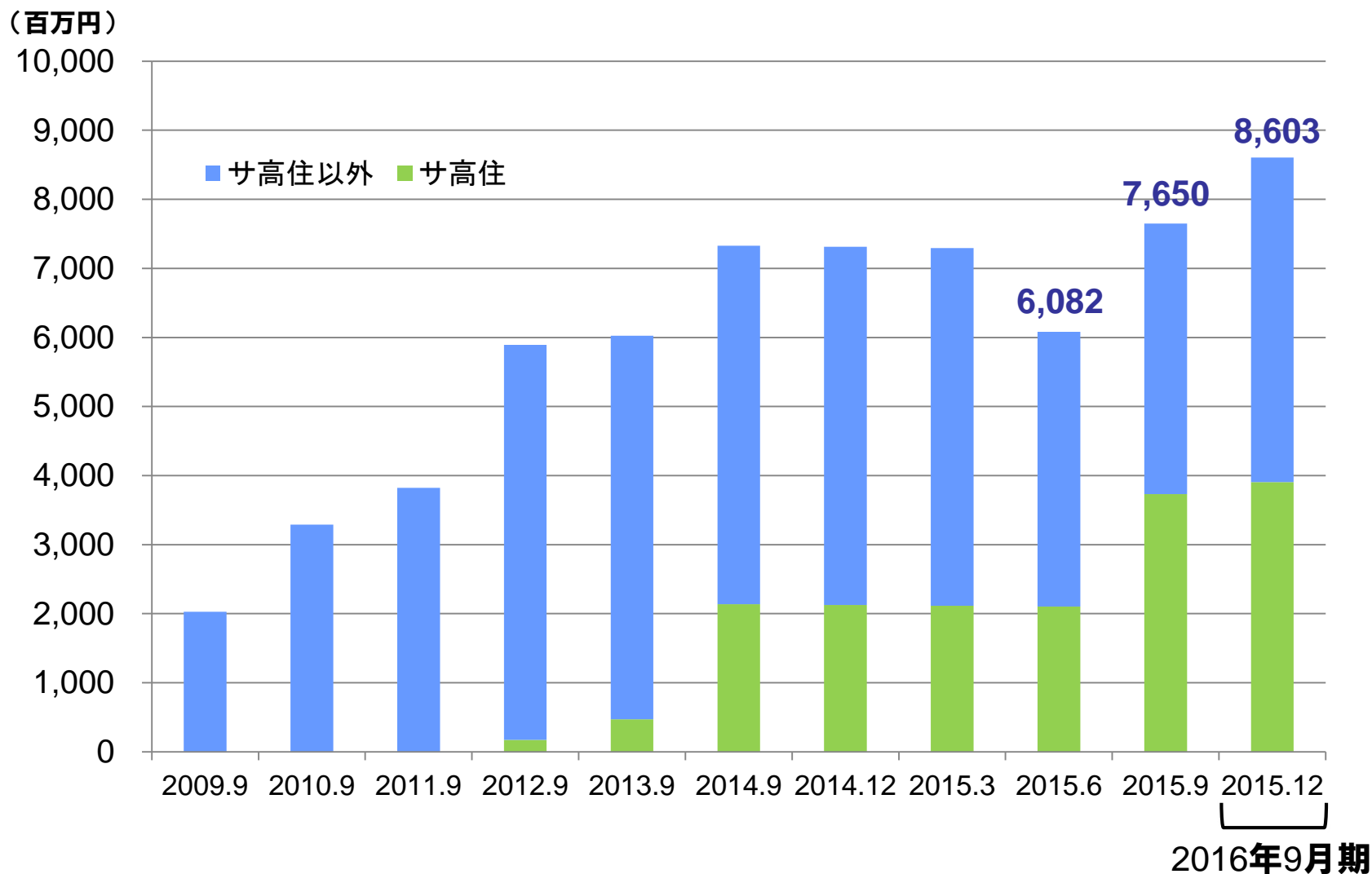


ミュージックセキュリティーズ(株)は、インターネットを通じて事業資金提供者を募る投資型「クラウドファンディング」分野の先駆的企業です。

同社の運営するマイクロ投資プラットフォーム「セキュリティ」は、国内外の魅力的な事業者の方々の様々な資金ニーズと、事業や地域を応援したいとの思いが強い、小口投資家のニーズを結びつける役割を担っています。フィンテックグローバルトレーディング(株)は、同社の第三者割当増資の一部を引受けるとともに、今後、事業の連携を図ってまいります。

フィンテックアセットマネジメントの受託資産残高(AUM)の推移

2016年9月期第1四半期に地方都市の複合施設のアセットマネジメントを新規受託。
2015年9月末に比して受託金額が伸長。



連結貸借対照表

資産の部

	15年9月期	16年9月期 第1四半期	増減
流動資産	10,507,445	9,473,295	△ 1,034,149
現金及び預金	4,617,855	3,162,250	△ 1,455,605
受取手形・売掛金	237,393	33,582	△ 203,811
1 営業投資有価証券	1,565,930	1,538,456	△ 27,473
営業貸付金	761,902	717,893	△ 44,009
2 販売用不動産	1,515,740	2,792,305	1,276,564
仕掛販売用不動産	1,135,958	1,100,260	△ 35,697
繰延税金資産	4,342	6,756	2,413
その他	870,335	292,035	△ 578,300
貸倒引当金	△ 202,015	△ 170,244	31,770
固定資産	1,450,659	1,538,479	87,819
有形固定資産	841,025	846,196	5,170
無形固定資産	129,704	117,075	△ 12,628
1 投資その他の資産	479,929	575,207	95,277
資産合計	11,958,104	11,011,774	△ 946,329

1 "フィンテック"関連企業等へ新規投資を実行
(保有区分の変更により、「営業投資有価証券」の一部を「投資その他の資産」で計上)

2 太陽光発電設備等の取得、セルフストレージの取得、
不動産事業での戸建用地取得等による増加

負債の部

(単位: 千円)

	15年9月期	16年9月期 第1四半期	増減
流動負債	3,109,925	2,832,371	△ 277,553
支払手形・買掛金	41,639	47,688	6,048
短期借入金	2,372,557	2,217,399	△ 155,158
1年内償還予定の社債	46,000	46,000	0
1年内返済予定の長期借入金	163,284	163,884	600
未払法人税等	41,396	11,942	△ 29,453
賞与引当金	42,466	27,389	△ 15,077
その他	402,581	318,068	△ 84,512
固定負債	968,294	751,044	△ 217,250
社債	98,000	90,000	△ 8,000
長期借入金	691,779	485,565	△ 206,214
退職給付に係る負債	105,646	110,446	4,799
繰延税金負債	37,606	33,824	△ 3,782
その他	35,261	31,208	△ 4,053
負債合計	4,078,219	3,583,416	△ 494,803

純資産の部

株主資本	7,940,881	7,549,921	△ 390,960
資本金	4,548,138	4,548,138	0
資本剰余金	2,125,950	2,121,736	△ 4,213
利益剰余金	1,266,792	880,045	△ 386,746
その他の包括利益累計額	△ 118,455	△ 175,130	△ 56,675
新株予約権	16,729	20,645	3,916
非支配株主持分	40,728	32,921	△ 7,806
純資産合計	7,879,885	7,428,358	△ 451,526
負債純資産合計	11,958,104	11,011,774	△ 946,329

連結損益計算書

		2015年9月期 第1四半期	2016年9月期 第1四半期	(単位: 千円) 増減
売上高	1	961,693	2,355,096	1,393,402
売上原価		542,593	1,954,471	1,411,878
売上総利益		419,100	400,624	△ 18,475
販売費及び一般管理費	2	528,612	678,717	150,105
営業損失(△)		△ 109,512	△ 278,093	△ 168,581
営業外収益		182,077	5,991	△ 176,085
営業外費用		8,654	23,890	15,236
経常利益又は経常損失(△)		63,909	△ 295,992	△ 359,902
特別利益		101	—	△ 101
特別損失		1,280	89	△ 1,190
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)		62,731	△ 296,082	△ 358,813
法人税等		△ 9,428	197	9,626
四半期純利益又は四半期純損失(△)		72,160	△ 296,280	△ 368,440
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)		△ 1,295	△ 6,681	△ 5,385
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)		73,455	△ 289,599	△ 363,054

1 太陽光発電設備等の取得、売却により、売上高、売上原価とも、大幅に増加

2 投資銀行事業(メツツァ事業を含む)の人員補強により、人件費が増加。
メツツァ事業により支払手数料も増加。

メッツァ事業について

北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設「メッツァ」に係る事業には、株主、投資家の皆様から多くのご質問をお寄せいただいております。その代表的なご質問を紹介し、回答させていただきます。

Q1

メッツァ事業の現在の状況はどうなっていますか。

A1

メッツァ事業は、当社グループにとって大きなプロジェクトであります。このため、慎重な対応をもってこれを進めています。2017年予定の開業へ向け、主に下記①②を同時並行で進めております。

①マーケティング、事業構想ならびに基本計画の策定

北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験しに、何度も遊びにきていただける魅力ある施設にすべく、各分野のパートナー会社にもご協力いただき、綿密な各種マーケティングをもとに事業構想ならびに基本計画の策定とその検証を行っています。

②各種許認可の申請、届出

メッツァを開業する埼玉県飯能市の宮沢湖における大規模な開発となるため、多くの各種許認可の申請や届出が必要です。地元自治体のご協力のもと、これを進めております。

皆様に「メッツァ」の具体的な内容をお知らせできる日を楽しみにしております。

Q2

フィンテックグローバルは投資銀行事業を行っていますが、テーマパーク事業はできるのですか。

A2

当社は投資銀行事業を主たる業務としています。テーマパーク事業の経験はありませんが、多くの業種の事業において、アレンジメントを行ってきました。プロジェクトのマネジメントはこの中で培ってきています。また、テーマパークをはじめとするレジャー施設や大型集客施設に関わってきた多くのプロフェッショナルな人材を獲得しており、社内リソースを充実させております。これを基盤に、各分野で有力なパートナー会社にもご協力いただき、Q1に記載のとおり、計画策定を進めております。

参考資料

- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 連結業績の推移（6期分）
- グループ各社 単体業績の推移

個別貸借対照表

資産の部

	15年9月期	16年9月期 第1四半期	増減
流動資産	8,092,919	6,755,282	△ 1,337,636
現金及び預金	4,178,000	2,728,105	△ 1,449,894
売掛金	160,300	11,438	△ 148,862
営業投資有価証券	1,505,339	1,317,819	△ 187,520
営業貸付金	782,862	770,553	△ 12,309
短期貸付金	924,050	1,038,672	114,622
その他	789,108	1,138,072	348,964
貸倒引当金	△ 246,741	△ 249,379	△ 2,637
固定資産	1,579,563	1,874,830	295,267
有形固定資産	613,387	612,594	△ 792
無形固定資産	9,034	8,399	△ 635
投資その他の資産	957,141	1,253,837	296,696
資産合計	9,672,483	8,630,113	△ 1,042,369

負債の部

(単位: 千円)

	15年9月期	16年9月期 第1四半期	増減
流動負債	1,559,865	992,031	△ 567,834
買掛金	35,451	69,762	34,311
短期借入金	1,220,500	673,734	△ 546,766
1年内返済予定の長期借入金	17,268	17,868	600
未払金	138,547	110,975	△ 27,572
預り金	31,463	53,011	21,548
賞与引当金	30,703	22,866	△ 7,836
その他	85,932	43,812	△ 42,119
固定負債	266,403	248,537	△ 17,866
長期借入金	138,929	135,551	△ 3,378
リース債務	369	147	△ 221
退職給付引当金	73,329	77,220	3,891
その他	53,776	35,618	△ 18,158
負債合計	1,826,269	1,240,568	△ 585,701

純資産の部

株主資本	7,948,398	7,544,279	△ 404,119
資本金	4,548,138	4,548,138	0
資本剰余金	2,113,361	2,113,361	0
利益剰余金	1,286,898	882,779	△ 404,119
評価・換算差額等	△ 118,914	△ 175,379	△ 56,464
新株予約権	16,729	20,645	3,916
純資産合計	7,846,213	7,389,545	△ 456,667
負債純資産合計	9,672,483	8,630,113	△ 1,042,369

個別損益計算書

(単位：千円)

	2015年9月期 第1四半期	2016年9月期 第1四半期	増減
売上高	215,851	1,017,332	801,480
売上原価	33,307	932,146	898,838
売上総利益	182,543	85,185	△ 97,358
販売費及び一般管理費	250,723	397,679	146,955
営業損失(△)	△ 68,179	△ 312,493	△ 244,314
営業外収益	186,541	13,214	△ 173,326
営業外費用	517	20,624	20,107
経常利益又は経常損失(△)	117,844	△ 319,903	△ 437,748
特別利益	101	—	△ 101
特別損失	10,930	89	△ 10,840
税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失(△)	107,015	△ 319,993	△ 427,009
法人税等	△ 139	△ 13,022	△ 12,883
四半期純利益又は四半期純損失(△)	107,154	△ 306,971	△ 414,126

連結業績の推移

決算年月		2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期	2015年 9月期	2016年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	6,988	2,038	1,603	3,911	5,429	2,355
売上総利益	(百万円)	3,509	908	1,468	2,398	2,495	400
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	1,220	△ 915	88	684	237	△ 295
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	1,404	△ 1,274	182	923	224	△ 289
純資産額	(百万円)	4,870	3,632	2,716	5,534	7,879	7,428
総資産額	(百万円)	7,682	6,417	4,770	7,452	11,958	11,011
1株当たり純資産額	(円)	31.52	19.82	22.23	37.41	48.31	45.55
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	(円)	11.69	△ 10.70	1.52	6.92	1.48	△ 1.79
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	11.68	—	1.52	6.89	1.47	—
自己資本比率	(%)	48.9	36.8	56.4	73.9	65.4	
自己資本利益率	(%)	45.3	△ 41.7	7.2	22.5	3.4	—
株価収益率	(倍)	2.6	—	21.9	9.2	84.7	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,953	959	△ 464	△ 2,208	△ 1,791	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 631	80	85	509	△ 644	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 413	△ 233	△ 128	2,065	4,761	—
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	1,711	2,522	1,644	2,024	4,612	—
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	70(17)	60(19)	51(13)	109(7)	117(8)	119(6)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	15(2)	20(3)	26(3)	24(3)	38(3)	43(3)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2011年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

グループ各社 単体業績の推移

単位：百万円

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル	2014年9月期			2015年9月期			2016年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	1,310	313	1,623	531	932	1,464	1,017
売上総利益	1,178	188	1,367	376	895	1,271	85
経常利益	790	△ 219	571	28	274	303	△ 319

セグメント：投資銀行事業

フィンテック アセット マネジメント	2014年9月期			2015年9月期			2016年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	179	86	265	30	55	85	17
売上総利益	179	80	260	30	55	85	17
経常利益	105	21	126	△ 1	26	25	△ 0

セグメント：投資銀行事業

フィンテック グローバル トレーディング	2015年9月期	2016年 9月期
	通期 (15年1月～9月)	1 Q
売上高	171	66
売上総利益	160	61
経常利益	95	45

2015年1月より連結

セグメント：その他

ムーミン物語	2015年 9月期	2016年 9月期
	通期 (15年1月～9月)	1 Q
売上高	0	0
売上総利益	0	0
経常利益	△ 95	△ 24

2015年1月より連結

セグメント：その他

アダコテック	2015年 9月期	2016年 9月期
	通期 (15年1月～9月)	1 Q
売上高	19	9
売上総利益	19	9
経常利益	△ 2	1

2015年1月より連結

セグメント：不動産事業

ベルス	2014年9月期			2015年9月期			2016年 9月期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	209	233	442	204	359	564	85
売上総利益	169	192	362	136	294	431	65
経常利益	△ 9	13	3	△ 44	35	△ 9	△ 20

2015年9月期は決算期変更のため、15ヶ月決算(下半期は9ヶ月)

セグメント：不動産事業

ユニハウス	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期	城南開発	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期
	下半期 (14年4月～9月)	上半期	下半期	通期	1 Q		下半期 (14年4月)	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	39	221	205	426	104	売上高	152	12	1	14	-
売上総利益	39	221	205	426	104	売上総利益	152	12	1	14	-
経常利益	△ 63	△ 22	△ 50	△ 72	6	経常利益	23	△ 3	△ 10	△ 14	0

2014年4月より連結

2014年6月、ユニハウスホールディングスが城南開発(旧ユニハウス)より事業譲渡(商号譲渡を含む)を受け、商号をユニハウスとしております。

セグメント：不動産事業

2014年4月より連結 2015年9月解散

2014年6月30日、ユニハウスから城南開発に商号変更しております。

セグメント：不動産事業

ベターライフ ハウス	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期	スリーオーク	2014年 9月期	2015年9月期			2016年 9月期
	下半期 (14年4月～9月)	上半期	下半期	通期	1 Q		下半期 (14年4月)	上半期	下半期	通期	1 Q
売上高	20	670	1,400	2,071	1,147	売上高	321	239	173	412	-
売上総利益	17	56	89	146	79	売上総利益	30	8	8	16	-
経常利益	△ 11	△ 12	△ 27	△ 40	5	経常利益	8	6	2	9	△ 0

2014年4月より連結

2014年4月より連結 2015年9月解散

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2016年9月期第1四半期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実(以下、「将来情報」ということがあります)の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付(または当該資料・文書に別途明示された日付)時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

